

リニューアルサイトのCMS要件

1. 基本要件		
基本要件	1-1	導入するCMSは、当機構と同規模以上の中央省庁、独立行政法人、地方自治体等へ導入され、1年間以上の運用実績があること。
	1-2	職員がCMSを利用するため、特別なソフトを各端末にインストールすることなく、WEBブラウザから利用できること。
	1-3	職員がID・パスワード認証によりCMS管理画面へログインできること。
	1-4	以下のブラウザにおいて正常に画面表示ができること。各ブラウザメーカーにて動作保障中のバージョンは対応すること。また、最新バージョンが公開された場合は、速やかに対応すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Internet Explorer 11.0 / Microsoft Edge ・ Mozilla Firefox 最新版 ・ Google Chrome 最新版 ・ Safari 最新版
	1-5	端末台数やユーザー数、ページ数やテンプレート数の増加により、ライセンス料が変動しないこと。
	1-6	ユーザー全員に個別のID、パスワード(原則として8ケタ以上)を付与できること。
	1-7	データと表示スタイルを完全に分離し、表示スタイルは全てスタイルシートで管理すること。
	1-8	生成されるコンテンツデータ(ページ)については、XHTML1.0 Transitional以上の規格に準拠し、Web標準に配慮した文書構造を持つこと。また、アクセシビリティツールによる、コンテンツの音声読み上げ機能に対応していること。
	1-9	UTF-8の文字コードに対応すること。
	1-10	1つのページ内で複数の言語の記述が可能であること。
	1-11	公開画面は、特殊な挙動のページを除き、静的なHTMLであること。
	1-12	閲覧者が画面をA4縦型で印刷する際、ブラウザやOSに関わらず内容が損なわれずに印刷できること。
	1-13	JICAウェブサイトの全てのページを常時SSL化すること。
デザイン	1-14	公開画面は、サイト全体が標準化・統一化されたデザインルールにより構築されること。ただし、異なるデザインまたはドメインを持つ特設サイト・ページを別途作成し管理できること。
	1-15	トップページ等は、HTMLやCSSの知識がある職員(サイト管理者)レベルで、デザインの軽微な修正ができること。
	1-16	大規模災害時、組織を挙げてのイベント等の際に、トップページへ重要なお知らせを表示する機能を有すること。
2. ページ作成機能		
基本的な仕様	2-1	レスポンシブデザインに対応し、パソコン、スマートフォン、タブレット型端末等機器の種類やサイズに応じて表示内容が最適な状態に変化するよう設定された単一のファイルを制作できること。
	2-2	作成者がHTML言語を意識することなくワープロ感覚で記事を作成でき、掲載される画面をイメージできる作成画面であること。
	2-3	テンプレートを使用することで、専門知識を持たない一般的な職員でも編集ができ、見出しや段落、表等がタグの知識を持たなくても容易に記事ページに反映できること。
	2-4	Microsoft Wordと同様のツールバー機能があり、テンプレートを選択することで、統一したデザインの記事ページ作成が可能なこと。
	2-5	フォーム入力型のテンプレートも利用できること。
	2-6	ワープロソフトのようなWYSIWYGインターフェースとフォーム入力型インターフェースが、同一のテンプレート内で利用できること。
	2-7	記事ページ作成完了時、必須項目に未入力があった場合、警告を表示しスムーズに修正できること。
	2-8	記事ページのレイアウト及び記事内容はコピーして再利用できること。
	2-9	同じ記事ページを更新して再度公開を行う際に、以前公開していた記事ページを前バージョンとして管理できること。バージョンの上限数は特に指定のない限りないものとし、また以前のバージョンを再利用することも可能であること。
	2-10	一定期間更新のない記事ページが存在する際、警告を表示すること。その際警告を表示させる期間の設定が容易に可能であること。

	2-11	一定期間更新のない記事ページが存在する際、強制的に公開を停止する機能を有すること。また、記事ページ一覧画面より継続等の措置が簡易に行えること。
	2-12	ファイルの保存時には、自動的に連番のファイル名が入ること。また、必要に応じて任意のファイル名が指定できること。
	2-13	画像、添付ファイルのファイル名が、日本語名等のサーバ上で使用できないものである場合には警告を表示し、スムーズに修正できること。
	2-14	作成時に操作を誤った場合、その操作の1つ前の状態に戻すことができること。
	2-15	作成途中の記事ページを一時的に保存し、再ログイン後に編集を再開できること。
	2-16	検索サイトで上位に記事ページを表示させる機能(SEO)対策として、「概要」を容易に設定できること。
	2-17	記事ページ作成画面内に文字列の検索・置換機能があり、容易に文字列の検索・置換ができること。
	2-18	権限を与えられた作成者は、HTMLのソースコードを直接編集できること。
	2-19	記事ページ編集画面から入力データの失われる可能性がある画面へ遷移する際に、そのままとどまるか遷移するかの確認メッセージを表示・非表示の選択ができること。
他データの流 用・表の編集	2-20	Wordデータを取り込み、自動的にHTMLデータに変換できること。その際、Word上で設定された見出しスタイルやリスト情報、揃え位置等をHTMLスタイル上に反映できること。
	2-21	Word、Excelデータをコピー＆ペーストできること。その際、アプリケーション特有のHTML(CSS)表現を自動的に削除できること。
	2-22	Word、Excelデータから取り込んだ(もしくはコピー＆ペーストした)表は、再編集できること。行や列の追加・削除、見出しセルの設定、幅の指定等が、ソースコードを直接編集することなく、容易に操作できること。
	2-23	表を新規で作成できること。行や列の追加・削除、見出しセルの設定、幅の指定等が、ソースコードを直接編集することなく、容易に操作できること。
	2-24	表の見出しを設定した際に、ソースコードを直接編集することなく、見出しの指定範囲を設定漏れしないように防ぐ機能を有すること。
	2-25	Googleマップ等を用いて、地図情報を提供できること。また、住所や施設名等を入力することで簡単に掲載する地図の場所を指定できること。
画像	2-26	簡易な操作でクライアント端末やCMSサーバ上にある画像を掲載・参照し、変更できること。
	2-27	CMSサーバ上に全作成者が共通で使用可能な画像の素材集を設置でき、一覧表示の中から選択して使用できること。また、その素材集は、サイト管理者によって追加、削除が可能なこと。
	2-28	画像に説明やリンクをつけられること。
	2-29	画像の代替テキスト(alt属性)の未入力を防ぐために警告が表示されること。
	2-30	登録できる画像のファイル種別(JPEG、GIF、PNG等)を制限できること。
	2-31	公開する画像のファイル容量又は画像サイズを制限できること。
	2-32	制限容量を超えた画像は自動でリサイズ又は警告を表示できること。
	2-33	クライアント端末にソフトをインストールすることなく、画像のリサイズ、トリミング、解像度の変更等ができる画像の編集機能があること。
	2-34	簡単な操作で画像上の指定された位置に、コピーライトの表示ができること。
	2-35	簡単な操作で画像上の指定された位置に、文字の挿入が行えること。挿入できる文字列は、文字の変更、文字サイズの変更、文字色の変更、文字列に影付き等の見やすくするための装飾が行えること。
動画	2-36	複数画像のインライン挿入(特定の座標位置ではなく、文字と文字の間に挿入)ができること。また、表示位置、表示サイズの指定が可能であること。
	2-37	CMSで作成する記事ページ内に、YouTube等の動画配信サイトに掲載した動画を埋め込み再生できること。
	2-38	様々なサイズやファイル形式で動画の登録・配信が簡単に行えること。ただし、サイズの制限設定があること。
添付ファイル	2-39	記事ページにWord、Excel、PDF等の各種文書ファイルをリンクできること。
	2-40	リンクした文書ファイルの種類(Word、Excel、PDF等)、サイズが自動で表示されること。
	2-41	PDFをリンクした場合、Adobe Readerのダウンロードを促す案内が、自動で表示されること。
	2-42	ダウンロードファイルのリンクは、任意の場所に表示できること。
	2-43	記事ページからリンクする文書ファイル等の種類、容量を統一して制限できること。

リンク	2-44	内部リンク・外部リンクを容易に設定できること。
	2-45	内部リンクは、一覧等からリンク先を選択するだけで容易に設定できること。
	2-46	外部リンクを設定した場合、サイト管理者が定めた任意のルールに基づき、リンク文字列の後ろに「外部リンク」等の文言を自動挿入できること。
	2-47	リンク先を表示する際、別ウィンドウで開く設定が可能であること。
	2-48	公開前(未承認)の記事ページに対してリンク設定ができること。(新規に作成した記事記事ページのアドレスが公開前に確認できること。)
	2-49	ファイルの格納場所や、ファイル名が変更された場合等、リンクに関わる変更があった場合には、自動的に該当するリンクが修正されること。
	2-50	記事ページ公開開始時に、パンくずリスト、指定したカテゴリインデックス、ローカルナビゲーション、およびサイトマップにページタイトルをリンク名としたリンクが自動生成され、公開終了時にそれらが自動削除できること。
	2-51	内部リンク・外部リンクのリンク切れを一括でチェックでき、一覧として作成者・承認者・サイト管理者が確認できること。
	2-52	内部リンク・外部リンクのリンク切れをページ単位でチェックでき、ページ内のどの部分にリンク切れがあるか視覚化して確認できること。
	2-53	ページを削除する際に他のページからリンクが設定されていないかチェックを行い、リンクが貼られていた場合は警告表示と該当ページ一覧を表示できること。 また、リンクが貼られているページの一覧をCSVにて出力できること。
外部取り込み	2-54	外部で作成されたHTMLファイルや画像ファイル等を、リンク関係を保持したまま一括でCMSへ取り込めること。
	2-55	取り込んだファイルは、CMS内で作成するHTMLファイルと同様の操作で再編集できること。
記事ページの公開・削除・再利用	2-56	職員が公開開始・終了日時を入力することで、指定した日時に記事ページの自動更新ができること。
	2-57	公開期限は、年月日のほかに15分単位で時間指定できること。
	2-58	公開日時を指定しない記事ページの場合は、即時公開の設定が容易にできること。
	2-59	公開期限を無期限とする設定が容易にできること。
	2-60	すでに公開されている記事ページを未来の日付で更新する場合は、現在の記事ページを直接編集し日時設定することで、予定の日時に記事ページが自動更新されること。
	2-61	記事ページに公開日、又は最終更新日が自動的に表示されること。ただし、任意の日付に置き換えができること。
	2-62	記事ページの公開・更新を行った際、記事ページが所属するカテゴリの内容も自動で更新(タイトルの後ろ等に更新日が自動挿入)されること。
	2-63	記事ページを公開サーバから削除する際、記事ページが所属するカテゴリに表示された文章とリンクが自動削除されること。
	2-64	記事ページを公開サーバから削除する際、HTMLファイルだけでなく、付属する画像ファイルやPDFファイル等も同時に公開サーバから自動削除できること。
	2-65	記事ページを公開サーバから削除する際、対象の画像やPDF等のファイルが、削除対象ではない記事ページからリンクされた状態にある場合、サーバ上に残せること。
2-66	公開が終了した記事ページは再利用できるようにCMSサーバに保存できること。	
2-67	CMSサーバに保存されている記事ページを一覧から選択・複写し、新規記事ページを作成できること。	
2-68	公開が終了した記事ページの一覧を表示でき、一括、又は選択してCMSサーバから削除できること。	
プレビュー	2-69	記事ページの公開イメージを、作成・承認の各段階で容易にプレビューできること。また、プレビュー画面からは、容易な操作で作成画面等に戻れること。
	2-70	当該記事ページからリンクをたどる形で、内部リンク先の記事ページも含めて公開時と同じ状態でプレビューできること。
	2-71	記事ページ単位で、色に頼った情報提供になっていないかを、イメージ画像等にて、視覚的に把握できる機能を有すること。
	2-72	記事ページ単位で、画像に頼った情報提供になっていないかを、イメージ画像等にて、視覚的に把握できる機能を有すること。
	2-73	任意の未来日を指定して、その時点での記事ページ及びサイト全体をプレビューできること。
	2-74	スマートフォン版ページ等、他のメディアへの表示もプレビューできること。

アクセシビリティ 及びチェック機能	2-75	ページ単位でアクセシビリティ上の問題を総合的にチェックできること。また、問題箇所をイメージ画像にて明示し、なぜ問題があるのか、どう修正したら良いのかを表示できること。
	2-76	記事ページ作成時にアクセシビリティ等に関する項目のチェックを自動で行い、問題がある箇所は警告を表示し、自動変換できること。 ・画像の代替テキストの有無 ・日付、時間等の表記 ・全角英数字、半角カナ文字使用の有無 ・機種依存文字、禁止文字使用 ・不要な全角スペース、半角スペースの使用 ・ページタイトルの有無 ・ファイル名の有無
	2-77	記事ページタイトル、およびファイル名は重複チェックが可能で、必要に応じて重複を許可することができること。
	2-78	使用が好ましくない単語が含まれている場合、サイト管理者が指定する単語に自動変換する機能があること(例:「原住民」→「先住民」)。変換対象とする単語は、サイト管理者が任意で登録することができ、登録可能な単語数に制限がないこと。
	2-79	使用が好ましくない単語の自動変換機能については、記事ページ内容によってはあえて表記する場合も想定できるため、ページ作成者が変換候補とは異なる文字も使用できること。
	2-80	表(テーブル)の構造化チェック、キャプションに指定された文字列のチェックを行えること。
	2-81	見出しの構造化チェックが行えること(例:見出し1の有無、見出し1、見出し2等の階層構造)。
	2-82	全てのページに文字拡大機能を有すること。
	2-83	全てのページに文字色・背景色変更機能を有すること。
	2-84	複数の音声読み上げソフトに対応できるように、作成された記事ページのソースはアクセシビリティに配慮した順番で記述されること。
	2-85	アクセシビリティチェック時に、記事ページ内の本文や代替テキスト表内の文字等、読み上げ順を確認できること。
	2-86	文字色と背景色の組み合わせが、色覚に障がいのある人に適切かどうかを確認できること。
	2-87	記事ページ一覧画面においてアクセシビリティに違反する記事ページがひと目で分かるよう表示できること。
2-88	リストやリンクの項目数が任意に設定した数を超えたときに検知する機能を有すること。	

3. 自動更新、自動生成機能

新着リンク	3-1	記事ページ作成時に、指定する新着情報エリア(トップページ、カテゴリトップページ、サブサイトトップページ等)へ掲載の有無を設定でき、公開されるタイミングで自動掲載されること。
	3-2	新着情報に掲載した情報は、自動的に掲載した日付の降順で表示され、表示しきれない情報は、新着情報一覧ページに別途表示できること。
	3-3	指定する新着情報エリア(トップページ、各カテゴリトップページ等)に表示できる件数、表示順を、サイト管理者が任意に設定できること。
	3-4	指定する新着情報エリア(トップページ、各カテゴリトップページ等)に、「NEW」「新着」等のアイコン表示及び表示期間を設定できること。
	3-5	新着情報に表示するタイトルを、記事ページのタイトルとは異なる設定ができること。
	3-6	トップページの新着情報に表示する記事ページはサイト管理者の承認が必要となるよう、通常とは異なる承認ルートを設定できること。
ナビゲーション	3-7	全てのページにトップページへ戻るリンクを設定し、統一した所定の位置に表示すること。
	3-8	各ページに、ページタイトルを自動的に引用したパンくずリストを自動生成できること。
	3-9	パンくずリストは、カテゴリ別・所属別等の複数の設定に対応できること。
	3-10	パンくずリストは、3-9の他、閲覧者がサイト内を閲覧したページ順に表示ができ、表示件数は設定できること。
	3-11	各ページにグローバルナビゲーション・ローカルナビゲーションを自動生成できること。
	3-12	サイトマップを自動生成でき、再編集できること。
	3-13	検索エンジンにクロールさせるためのサイトマップ用XMLファイルを自動で作成・更新できる機能を有すること。
3-14	対象ページが公開された際、ナビゲーションも自動更新され、公開終了時にはそれらを自動的に削除すること。	
RSS	3-15	サイト全体又はカテゴリごとの新着情報を、RSSフォーマットで出力できること。
	3-16	広報室が指定するページに、外部サイトからRSSで配信される情報を表示できること。表示は容易な操作で行え、表示件数の設定ができること。

4. サイト管理者の管理機能		
基本機能	4-1	複数ユーザーが同時にログインできること。
	4-2	各担当者や各部署により、コンテンツのグループごとに編集権限を設けることができること。
	4-3	ログインするユーザーIDにより、それぞれの権限に応じた画面が表示されること。
	4-4	ログイン後の画面に、CMS利用上の注意等を促すメッセージを掲載できること。
	4-5	CMS編集画面上に操作マニュアルを表示できること。
	4-6	同一ページを同時に別々のユーザーが更新できないこと。あるいは、更新しようとする際に警告が表示されること。
サイト管理者の権限	4-7	サイト管理者は、サイト内の全てのページを編集する権限があること。
	4-8	サイト管理者は、全てのページを承認ルートによらないで即時公開できる権限があること。また、指定したユーザーに即時公開(災害発生時の公開等)の権限を与えられること。
	4-9	サイト管理者は、CMSに登録されている全ページの情報(ページタイトル、階層構造、ディレクトリ)をCSV等に出力できること。
	4-10	サイト管理者は、カテゴリの追加・変更・削除、記事ページの振り分けができること。
	4-11	サイト管理者は、全ての記事ページの状態(作成中・承認待ち・公開中・非公開等)を一覧で確認でき、CSV等に出力できること。
	4-12	ヘッダー・フッター等のサイトの共通部分は、サイト管理者のみが変更できること。
	4-13	サイト管理者は、入力禁止文字の登録・変更・削除ができること。
	4-14	サイト管理者は、入力禁止文字が使用されているページを検索できること。また、検索後に置換できること。
ユーザー管理	4-15	サイト管理者は、ユーザーの登録・更新・削除を行えること。また、ユーザーの操作権限・ID・パスワード等の管理ができること。
	4-16	サイト管理者は、登録済みのユーザー情報をCSV等に出力できること。また、事前にExcel等のデータで作成したCSV等を利用してユーザー情報をCMSに取り込めること。
	4-17	サイト管理者は、人事異動時に伴うユーザーの所属変更を、事前にExcel等のデータで作成したCSV等を利用して簡単に行えること。また、年度末等の指定された日付で変更を適用できること。
	4-18	サイト管理者は、ユーザーの操作履歴(ページの公開・削除、操作日時・操作者・操作ページ・操作内容等)を確認でき、CSV等に出力できること。
テンプレート管理	4-19	管理可能なテンプレート数に上限がないこと。
	4-20	テンプレートは、HTMLやCSSの知識がある職員(サイト管理者)レベルで、修正、追加、削除ができること。
	4-21	テンプレートの修正があった場合、該当テンプレートを使用している全てのページを自動更新できること。
バナー広告	4-22	広告バナー画像、URL、掲載期間、掲載場所を個別に指定して表示できること。また、掲載期間を登録することにより、自動的に掲載開始、掲載終了できること。
	4-23	掲載した広告バナーのクリック数を集計する機能があること。

5. 承認ワークフロー		
基本仕様	5-1	作成者から承認者への2段階以上の承認ルートがあること。
	5-2	管理の対象ごとに異なった承認ルートを設定することができ、上限は設けないこと。
	5-3	新着情報に掲載する場合のみ、自動で通常承認ルートを経由し最終承認をサイト管理者が行えること。
	5-4	サイト管理者は、承認ルートの変更や追加を容易な操作で行えること。
	5-5	サイト管理者は、全ての記事ページの承認状況を確認できること。
	5-6	承認者は、承認依頼を受けた記事ページに対し、アクセシビリティチェックやプレビュー確認を行えること。
	5-7	承認者は、再承認依頼を受けた記事ページの変更された箇所を視覚的に確認できること。
	5-8	承認依頼時や差し戻し時に、メールによる連絡が送信されること。
	5-9	作成者・承認者は、各部署の記事ページの承認状況を確認できること。
	5-10	承認者は、承認依頼を受けた記事ページを差し戻す際、作成者向けにコメントを追記できること。
代理承認	5-11	承認者が不在の時、代理承認等の手段によって記事ページが公開できること。
承認依頼中の修正	5-12	承認依頼中の記事ページを作成者自身がキャンセルし、記事ページ内容を再編集できること。
	5-13	承認者は、承認依頼を受けた記事ページを上書き編集できること。

6. その他の機能		
定型的な記事ページと専用の登録画面	6-1	定型的に情報登録を行うことで、決められた位置に決められた内容の情報が表示される定型的な記事ページを作成管理できること。
	6-2	記事ページ作成画面においては、あらかじめ登録内容、登録方法が決められた各項目に情報を記入したり選択肢から選択するだけで記事ページが作成されること。
	6-3	記事ページ作成画面における登録項目については、サイト管理者が、その登録方法(テキストエリア、ラジオボタン、チェックボックス等)や必須の設定、登録内容の制限(最大文字数の制限等)を各項目ごとに自由に設定することが可能で、かつ項目数に上限なく追加更新できること。
	6-4	定型的な記事ページは、それ以外の記事ページ(WYSIWYG機能等で作成した記事ページ)と同様のルールと機能にて、アクセシビリティ等のチェックや対応が可能であること。
外国語翻訳	6-5	翻訳の対象は、JICAウェブサイト上で公開されている全てのページとすること。
	6-6	英語、フランス語、スペイン語等の4か国以上の言語に対する自動翻訳システムを導入すること。
	6-7	システムで翻訳した言語データをCMSに取り込んで、正常に表示できること。
	6-8	htmlファイルのテキストデータに加え、PDFファイルのテキストデータも自動翻訳可能であること。
アクセス解析	6-9	ページごとのアクセス件数、検索キーワード等が取得できること。
	6-10	閲覧者の使用するブラウザ・OS・モニタサイズが集計できること。
	6-11	閲覧者の接続ポイント(国、都道府県)が集計できること。
	6-12	解析結果は、CSVファイル等で保存・出力できること。
サイト内検索	6-13	JICA内部からのアクセスと外部からのアクセスを区別して集計できること。
	6-14	キーワードでサイト内のページが検索できるよう、検索の入力フォームを全ページに配置すること。
	6-15	キーワード完全一致の検索だけでなく、表記の違いがあっても検索結果が表示される同義語検索機能が備わっていること。
	6-16	ページのみ、PDFのみに絞った検索や、分類を選択した検索ができること。
	6-17	サイト内と別サーバで稼働している関連ページ内の検索ができること。
イベント申し込み	6-18	検索結果のページは、サイト内の他のページと同様、同じ体裁のヘッダー、フッターを表示させ、閲覧者には、別のサイトに移動してしまったという印象を与えないようにすること。
	6-19	SSLに対応したイベント申し込みフォームを容易に作成できること。
	6-20	申込み結果を集計する機能があり、途中集計や集計された結果をCSVファイル等で保存・出力できること。
アンケート	6-21	投稿者が送信前に入力内容を容易に確認でき、送信後に自動返信メールを送信できること。
	6-22	SSLに対応したアンケートフォームを容易に作成できること。
	6-23	サイト管理者だけではなく、各部署にてアンケートを作成できること。
	6-24	同時に複数のアンケートが設定できること。同時に開設できるアンケートページ数に上限がないこと。
	6-25	アンケートは指定した公開日・削除日に、自動公開・自動削除できること。
	6-26	各アンケートページの設定問数は、上限がないこと。
	6-27	各設問は、択一方式(ラジオボタン)、複数選択可(チェックボックス)、プルダウンメニュー、自由記入欄のほか、一般的なフォームのスタイルを自由に採用できること。
	6-28	入力項目には、必須・任意の設定ができること。
	6-29	作成したアンケートページに、画像の貼り付けや各種ファイル(例:PDF)へのリンク、関連ページへのリンク等の掲載ができること。
	6-30	アンケート結果を集計する機能があり、途中集計や集計された結果をCSVファイル等で保存・出力できること。
	6-31	投稿者が送信前に入力内容を容易に確認でき、送信後に自動返信メールを送信できること。